

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜木中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	R7年度さいたま市学習状況調査の生徒質問「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていますか。」の肯定的な回答が市平均より5%高く、日々の学習において個に応じた知識・技能の習得できる学習課題の設定が出来ています。また、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の肯定的な回答が市平均より5%高く、主体的に学習に取り組んでいる。しかしながら、R7年度さいたま市学習状況調査の結果から知識・技能の定着には生徒の差が見られる。既習事項を確認したり、繰り返し学習したりすることにより、さらなる定着を図っていく必要がある。また、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識・技能を主体的に獲得していくことができるよう、授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	R7年度さいたま市学習状況調査の生徒質問「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか。」に対して、肯定的な回答が市平均より9%高く、課題であった説明文、資料やグラフ等の特徴や傾向を捉えて、言葉やデータを用いて相手に表現する場面設定と指導の工夫で改善が見られた。また、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか。」に対して、肯定的な回答が市平均より6%高く、各教科で学んだ知識を思考・表現する力が着々とついてきている。年間を通して各教科や総合的な学習の時間等で相手にわかるように伝える表現力や、相手に説明する際に根拠となる部分を引用したり、他者の考えと比較したりしながら、相手にわかりやすくする活動を次年度も継続して取り組んでいる。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	【学習上の課題】資料、データ、説明文等の内容理解について、知識・技能の習得における差が見られる。 【指導上の課題】資料や物語等で日常生活に結びついた資料を用いたり、個に応じて知識・技能の習得を図ったり、話し合い活動を通して知識の定着を図っていく等の指導に工夫が必要である。	⇒ 【学力改善策】①ICT等を用いて資料やデータ等の具体物を提示し、個に応じて自身の知識を深める時間を設定。②ドリルパークやスタディサプリ等を活用した、知識・技能の習得。③生徒が主体的に学ぶ時間の設定。【通年】 【評価方法】R7年度さいたま市学習状況調査の質問項目「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の2項目において、肯定的な回答の割合が90%以上
思考・判断・表現	【学習上の課題】知識や内容を相手にわかるように伝える表現力や、相手に説明する際に根拠となる部分を引用したり、他者の考えと比較したりしながら、相手にわかりやすく伝えることに課題がある。 【指導上の課題】説明文、資料やグラフ等の特徴や傾向を捉えて、言葉やデータを用いて相手に表現する場面設定と指導に工夫が必要である。	⇒ 【学力改善策】①ICT等を用いて個々の生徒の習熟度に応じた発展的な学習環境の設定。②理解した内容を相手に説明する等の協働的な学びの場面の設定。【通年】 【評価方法】R7年度さいたま市学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の2項目において、肯定的な回答の割合が90%以上

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	①【学力改善策】1年間を通してICT等を用いて資料やデータ等の具体物を提示し、個に応じて自身の知識を深める時間を設定することができた。②生徒1人ひとりの別したドリルパークやスタディサプリ等の課題を活用した。③生徒が自分の課題に取り組む時間を設定することで、生徒が主体的に学ぶ機会が増えた。 【評価方法】R7年度さいたま市学習状況調査の生徒質問「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定的な回答が93%で市平均を上回り、目標とした90%を上回った。一方、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の肯定的な回答は87%と市平均を上回ったが目標の90%には達しなかった。	【学力改善策】①教科や単元によって、ICT等を用いて個々の生徒の習熟度に応じた発展的な学習環境の設定をした。②理解した内容を相手に説明する等の協働的な学びの場面を年間を通して設定した。 【評価方法】R7年度さいたま市学習状況調査の生徒質問「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」の肯定的な回答が96%で市平均を上回り、目標とした90%を上回った。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の肯定的な回答は97%で市平均を上回り、目標とした90%を上回った。
思考・判断・表現	A		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、知識・技能の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高かった。正答率の高さの背景には、生徒質問「国語の授業で、文章を書いた後に、読み直して誤りや修正する時間があるか。」の肯定的な回答が全国平均より高く、また「国語の授業で、文章を書く際の構成や展開」などのような知識があるかについて、根拠を明確にして考えていますか。」への肯定的な回答も全国平均より高いことから、日々の国語の授業において「言葉の定着を図られている」。 数学では、知識・技能の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特にデータの活用での正答率が高かった。生徒質問「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動がよく行っていますか。」への回答が全国平均より高い。数学の授業における4人グループでデータや文章問題等に關して、自分の言葉でグループへの説明する対話的な学習の時間が設けられていて、知識を活用する技能が高まっている。
思考・判断・表現	国語では、思考・判断・表現の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」での正答率が高かった。問題出題の趣旨「相手の反応を踏まえずから、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。問題への正答率が全国平均より高く、背景には生徒質問「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」への肯定的な回答が全国平均より高く、国語の授業を含めた思考・判断・表現の授業が表現力の向上に繋がっている。 数学では、思考・判断・表現の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特に問題出題の趣旨「不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」問題への正答率が全国平均より高く、生徒質問「学級の生徒との話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいていますか。」への肯定的な回答が全国平均より高い。数学の授業を含めた各授業における協働的な学びが問題等への思考や判断の幅の広がりにつながっている。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全ての学年・教科でさいたま市平均点を上回った。生徒質問の「国語、数学、理科、社会、グローバルスタディは好きですか」の質問に対して、全教科で肯定的な回答が市平均よりも高い。また、「授業の内容はわかりますか」の質問に対しても、全教科で肯定的な回答が市平均よりも高い。このことから、日々の授業における知識・技能の定着が図られていることがわかる。 2年生の同一集団における経年比較では、各教科においてドリルパークやスタディ・サプリ等のICT活用や小テストの実施等の成果により昨年度より知識・技能の定着が図られている。一方で1年生の異集団における経年比較では、数学と理科に課題が見られた。既習事項を確認したり、繰り返し学習したりすることにより、さらなる定着を図っていく必要がある。また、知識の概念的な理解を大切に、生徒が知識・技能を主体的に獲得していくことができるよう、授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	全ての学年・教科でさいたま市平均点を上回った。生徒質問「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか。」への肯定的な回答が市平均よりも大きく上回っている。また、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。」への回答も市平均を大きく上回った。このことから、授業で学んだ知識をどのように伝えれば伝わるかを考えて表現していることがわかる。 特に、国語の「話題や展開を捉えながら話し合い、他者の発言を踏まえて結論をまとめることができるかどうかをみる。」問題、数学の「与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に則して解釈することができる。」問題での正答率が市平均よりも大きく上回っている。日々の授業における話し合い活動や、協働的な学びの成果が表れている。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	全国学力・学習状況調査の生徒質問「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」への肯定的な回答が全国平均より高い。各教科の授業における個に応じた探究の時間を更に充実させることで主体的な学習に繋がる。また、知識・技能を定着させるために主体的・対話的で深い学びの時間の更なる充実が課題。	変更なし
思考・判断・表現	A	全国学力・学習状況調査の生徒質問「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」への肯定的な回答が全国平均より高い。総合的な学習の時間での課題解決スキルが各教科の授業における課題設定や探究にも繋がっている。各教科において更に習熟度に応じて自ら課題に取り組む時間や、学んだことを互いに説明する協働的な時間を充実させることが課題。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)